



タンザニア

売れ筋商品調査【5】

住②：日用品（UVクリーム、紙おむつ、ボールペン、カラーペン）

- 調査実施日：2015年11月5日～2016年1月18日
- 調査場所：ダルエスサラーム〔シティセンター、カリアコー、ミコチェニ、ムウエンゲ、ダルエスサラーム大学、ウブンゴ、リージェントエステート の各地区〕
- 調査対象品目：日用品（UVクリーム、紙おむつ、ボールペン、カラーペン）
- 調査方法：
 - 小売店に対する聞き取り調査
 - 各店舗のフロアマネージャー、店員等にインタビュー。各店の売れ筋商品、価格、輸入者などへの聞き取り結果をまとめたもの。
 - 消費者に対する聞き取り調査
 - 高所得層、上位中所得層、下位中所得層、低所得層の4分類に分け、各分類ごとにインタビュー。
- 為替レート：1円 ≒ 18タンザニア・シリング（2015年11月時点、文中では「シリング」と表記）

売れ筋商品調査①

売れ筋商品：UVクリーム

	近代的店舗
商品写真	<p>※伝統的店舗では、販売していない。</p> 
商品名	NIVEA SUN® PROTECT & MOISTURE Moisturising Sun Lotion（スペイン製）
メーカー名	Beiersdorf AG（ドイツ）
輸入元	—
スペック	200ml（SPF50+、ウォータープルーフ）
価格	45,000シリング（約2,500円）
人気の要因	<p>価格は高いが、ブランドの知名度があり、品質にも信頼がおける。 日焼け止めを必要とする人は、確かな製品が欲しいと思っているだろうから。</p>
調査店舗	<p>Atlantis Pharmacare Ltd. （Morogoro Road沿いの店舗）</p> 

売れ筋商品調査 ②

売れ筋商品：UVクリーム 一つづきー

■ 消費者インタビュー

<高所得層>

- **10代女性**：「私立のセカンダリースクール(中学3年生～高校3年生)の生徒の有志でキリマンジャロ山に登った時に、引率の先生(イギリス人)からSPF50+の日焼け止めクリームを持参するように言われ、持参して使ったことがある。」
- **20代女性**：「月に一度くらいプールや海に行く時に使う。それ以外は使わない。」
- **40代女性**：「強い日差しを浴び続けると顔に黒い部分ができることがあるのでUVクリームを使ってみたが、結局、黒い部分解消にはならず、今は使っていない。多くのタンザニア人は、その存在すら知らないだろう。使っているという人の話を聞いたことがない。」
- **50代女性**：「情報としてUVクリームがあるということを知っている人はいると思うけれど、実際に使う人はほぼいないのでは？ 自分も使ったことがない。」

<上位中所得層>

- **20代女性**：「薬局や化粧品店などで売っているのは知ってるけれど、使ったことはない。友人たちも使っていない。」
- **30代女性**：「海へ遊びに行くときなど、日差しを強く浴びる時に使ったことはあるけれど、普段は使わない。ご存知のように黒い肌は日光にも強いので。」
- **50代男性**：「薬局や化粧品店で売られていることは知っているが、購入したことも使ったこともない。妻や大学生の娘はボディローションであれば使っているけど、UVクリームを使っているところを見たことはない。」

<下位中所得層>

- **20代女性(大学生)**：「そういうものの存在を知らなかった。」
- **20代女性**：「使ったことはない。」
- **40代男性**：「寒い時につけるクリームなら知ってるが、そういうのは知らなかった。」

<低所得層>

- **20代女性**：「そういうものがあることを知らなかった。」
- **20代女性**：「アルビノの人たちが肌を守るために必要としているのは知っている。薬局や化粧品店などで販売していると思うけど、実物を見たことも、使ったこともない。」
- **50代男性**：「そういうクリームがあることは知らなかった。きっと高価なんだろう。」
- **60代男性**：「薬局などで売っているというのは聞いたことがあるが、使ったことはない。」

■ 消費特性

街中の比較的大きな薬局を5軒まわったが、そのうち2軒にはなかった。恒常的に取り扱っていないようだ。他に化粧品店1軒、スーパーマーケット1軒を訪ねたところ、どちらも1種類のUVクリームしかなく、化粧品店ではニベアの50ml・SPF30+の商品が20,000シリングで販売されていた。スーパーマーケットのイマラセコには商品名“Lady Diana”というイギリスブランドのタイ生產品で、SPF40で170ml入りのものが7,500シリングで販売されていた。なお、Lady Dianaは、街中の店舗では価格が6,000シリングとなっている。比較的安価ではあるが、それでも一般的なお昼の定食代の約3回分である。

なお、伝統的店舗ではUVクリームを取り扱っている店が見つからなかった。肌の黒い人々の紫外線に対する耐性は、肌の色の薄い人々とは違うように思われる。ボディローションなどは女性たちに需要があるようだが、UVクリームの需要が今後、ぐっと増えてくるとはあまり思えない。



Lady Diana Sunblock

JETRO

売れ筋商品：紙おむつ

	近代的店舗	伝統的店舗
商品写真		
商品名	Pampers(パンパース)baby-dry JUMBO PACK	Ponpon(ポンポン)
メーカー名	P&G	Jinjiang City Anting Sanitary Products Co., Ltd
輸入元	Canadian Tanzanian “Cantanzania” Ltd.	Hengen Sanitary&Baby Products Co Ltd.(中国製)
スペック	Mサイズ(体重4~9kg用) JUMBO PACK(72枚入り)	Mサイズ(体重5~10kg用) 1枚
価格	49,500シリング(約2,750円)	500シリング(約28円)
人気の要因	新生児から2歳児用まで、各種サイズが揃っている上に、クオリティが高く、丈夫でしっかりしているので人気がある。72枚入りの方が36枚入り(26,300シリング)より割安になる。	ひとつひとつ、バラ売りされているので、低所得の人でも必要な時に買いやすい。よく知られたブランドで品質も悪くはない。
調査店舗	Shoppers Mikocheni (ショツパーズ ミコチエニ店)	Charley Shop(街中のチャーレーショップ) 

■ 消費者インタビュー

<高所得層>

- **30代男性**:「6カ月の子供がいる。自分が週末などに、スーパーマーケットに紙おむつを買いに行くこともある。PampersのJUMBO PACKを使っているが、手に入らない時にはHuggies(南アフリカ製)を使う。品質がいいものを選んでいる。」
- **30代女性**:「1歳半の子供にはPampersを使っている。スーパーマーケットで購入している。」
- **40代女性**:「現在、中学生の自分の子供が赤ん坊の頃は、布おむつを使っていたけれど、今は経済的に豊かでない人々も紙おむつを使っているようだ。」
- **50代女性**:「価格帯がいろいろあるので、品質を問わなければ、手に入れやすくなっているのではないかと。1枚ずつ、バラ売りしている店もある。」



Charley Shopの店頭陳列された紙おむつ

<上位中所得層>

- **30代女性**:「2歳の子供には、いつもパンパースを使っている。そうすれば、常に乾いた状態なので、子供の機嫌もいいし、洗濯する費用や手間も省ける。」
- **30代男性**:「現在9歳の子供が赤ちゃんの時には布おむつだったが、5歳の子供が赤ちゃんの時には紙おむつを使っていた。」

売れ筋商品：紙おむつ 一つづき—

■ 消費者インタビュー 一つづき—

< 下位中所得層 >

- **20代女性**：「6カ月の子供がいる。UTI(尿路感染症)などが心配なので、より安心できる布おむつを使っている。」
- **20代女性**：「1歳3カ月の子供がいる。普段は布おむつだが、病院など子連れで外出する必要があるときには、近所の店で500シリングのバラ売りの紙おむつを買っている。」
- **30代男性**：「1歳の娘がいる。普段は布おむつで出かける時だけ紙おむつを使っている。妻が近所の店でバラ売りのものを買ってくる。1つ500シリングくらいだったと思う。」
- **30代男性**：「現在5歳の娘が赤ん坊の時には昼間は布おむつ、夜寝る時に紙おむつを使っていた。」

< 低所得層 >

- **20代女性**：「今、4カ月の娘がいる。クリニックで紙おむつを使うとUTI(尿路感染症)になりやすいといわれているので、普段は木綿の布おむつを使い、おしっこをしても漏れないおむつカバー(Chupi cha Mkojo)を使っている。4,000シリングくらいで購入でき、何度も使える。ほかにもバンビーノ(Banbino)という使い捨てのプラスチックでできたおむつカバーもあり、それだと100シリングで買える。子連れで出かけるときだけ紙おむつを使う。バラ売りでは割高になるので、3,500シリングくらいの12個入りのパックを買っている。しかし、周りを見ると、おむつの洗濯が嫌なのか、普段でも紙おむつを使っている母親たちもいる。」
- **20代女性2人組(クリニックに来院中)**：「(2人とも)6カ月の娘がいる。普段は布おむつ、今日のような外出の時だけ紙おむつを使っている。近所の店でバラ売りのものを400シリングで購入している。」
- **20代女性**：「自分は子供がいないが、赤ちゃんのいる友人たちは外出の時だけ、紙おむつを使っているようだ。UTI(尿路感染症)が心配という人もいるが、経済的なこともあるだろう。」
- **40代女性**：「大家族で暮らしているので身近な赤ちゃんのいる人を見てみると、出かける時など、バラ売りの紙おむつを買うことはあるが、普段は布おむつ。もしくは何も履かせない時もある。」

■ 消費特性

タンザニア人が多く住む下町のようなエリアの店にも紙おむつは売られている。普段は布おむつを使用する人でも外出時には紙おむつにするケースが見受けられる。今回調査した伝統的店舗では、バラ売りの紙おむつは総じて500シリングだったが、400シリングで購入できる店もあるらしい。

タンザニアに駐在中の、子育てをしている日本人の話によると、タンザニアで入手できる“Pampers”は、日本で買えるものに比べ品質がよくないとのことである。できるだけ日本から持ってきているという人もいた。それでもタンザニアでは最高級品質の紙おむつとされている。Pampersに次ぐブランドが南アフリカのブランド“Huggies”とされている。

クリニックにおいて、感染症の予防のために紙おむつを使わないよう指導しているのも、タンザニアで売られている紙おむつの品質の問題からと思われる。低所得層が入手できる紙おむつは、タンザニアで流通しているPampersよりも安価な商品のため、品質がさらに劣ると思われる。購入しやすい価格で品質のよい紙おむつが出回れば、さらに市場が拡大していく可能性がある。

また、高所得層において、赤ちゃんがある程度大きくなると、パンツ型の紙おむつの方が便利なのだが、ここではほとんど手に入らないという声もあった。



(左写真) Ponpon・Mサイズ(体重5～9kg用)、12枚入りパック。調査店舗では4,000シリング(約222円)で販売。

(右写真) Huggies(体重5～9kg用)の1枚パック。ショッパーズでの価格は1,200シリング(約66円)。

売れ筋商品調査 ⑤

売れ筋商品：ボールペン

	近代的店舗	伝統的店舗
商品写真		
商品名	NATARAJ	BALAJI ONEWAY
メーカー名	Hindustan Pencils Pvt. Ltd(インド)	BALAJI THERMOWARE LTD(タンザニア)
輸入元	Pran Pen Corner Ltd.,	—
スペック	青色 0.7mm	青色 0.7mm
価格	300シリング(約17円)	200シリング(約11円)
人気の要因	<ul style="list-style-type: none"> ・価格が比較的安い。 ・書き味がよく、使い勝手がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・価格が安い。 ・書いている途中でインクが途切れることがない。
調査店舗	Pran Pen Corner Ltd.,(街中にある) 	ダルエスサラーム大学内の大学寮(Hall4)の近くの売店(店名はない) 

■ 消費者インタビュー

<高所得層>

- **30代女性**:「タンザニアでは小学校1～3年生までは鉛筆を使い、4年生からボールペンを使うようになるはず。自分は500シリングで手に入るNATARAJ(インド製)というメーカーの黒ボールペンを使っている。悪くない使い心地だ。」
- **50代男性**:「ノック式のボールペンを使っている。中国製だと思う。価格は1,000シリング。胸ポケットに入れて気軽に使えるから。」

<上位中所得層>

- **20代男性(大学生)**:「普段は、青色インクのボールペンを使っている。勉強にはもっぱらこのボールペンしか使わない。400シリングほどのものを月に4、5回、大学内の売店や、道端の木陰で売っている文房具売りから買う。」
- **20代女性(大学生)**:「今は200シリングのBalaji onewayを使っている。だいたい200～500シリングほどの青色インクのボールペンを買う。いつも大学の寮の近くの売店(今回の調査対象の店)で購入している。購入頻度は、平均したら月に2回ほどだが、月によって異なる。使いやすいののでBalaji onewayを買うことが多い。」
- **20代女性**:「Obamaが200シリングと安いのに書き味がよいし、細く書けるので使っている。」
- **30代男性**:「企業のキャンペーンなどでその宣伝用のボールペンをもらうことが多いので、そういうものを使うことが多い。」
- **50代男性**:「Simbaというブランドの300～350シリングほどの価格の黒と青インクのものを使用している。200シリングのものは時々書けなくなったりするので好きではない。」

JETRO

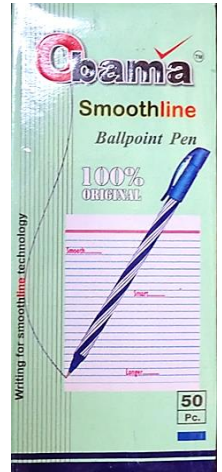
売れ筋商品調査 ⑥

売れ筋商品：ボールペン 一つづき

■ 消費者インタビュー 一つづき

<下位中所得層>

- **私立小学校4年生・男子**：「1年生から3年生までは鉛筆を使い、4年生からボールペンになる。このボールペン（Obama）は学校に売りに来る人から買った。価格は200シリング。ほとんどの子がこのボールペンを使っている。青インクが多いが、黒を使っている子もいる。使用する色の決まりは特にない。どのくらい持つかはよくわからない。失くしてしまうこともあるので。」
- **20代男性（大学生）**：「Obamaという種類の青色ボールペンを使っている。200シリングと安く、よく書けるのでこれを使っている。普段は、大学内の道端にいる文房具売りから買っている。月に1、2回買う。」
- **20代女性（大学生）**：「200シリングのBalaji onewayのボールペンを使っている。寮の近くの売店（今回の調査対象の店）で購入した。購入頻度は月に1回ほど。さらさらと快適に書けるので使っている。」
- **20代女性**：「オフィス用に1本350シリングのNATARAJをまとめ買いしている。書きやすく、インクが漏れず、最後まで使えるので。」
- **30代男性**：「仕事では350シリングで手に入るNATARAJの黒ボールペンを使っている。最近では事務系書類は黒インクで書くことが増えている気がする。学校では青インクが多い。NATARAJの黒ボールペンのペン先の細さは0.5mm。さらに安いものは、一度床に落とすと衝撃で壊れてしまうが、これは丈夫で書きやすい。」
- **40代男性**：「仕事の記録を付けるのには200シリングのObamaボールペンを使っている。インクは青。気軽に使える。」



インド製の
Obama ボールペン
(価格は200シリング)

■ 消費特性

ボールペンは階層を問わず日常的に買いやすい価格のものを使用しており、高所得層だからといって高級なボールペンを使うということでもないようである。

タンザニアではインクが青色のボールペンがよく使われている。小学校では、4年生からノートを取るのに青色ボールペンの使用が標準になっている。なお、大学やオフィスでも青色が使われていることが多い。

人気があるのが、今回の調査で売れ筋商品として取り上げたでタンザニア製の“Balaji oneway”（200シリング）だろう。キャンディートーンの軸色は、青、黄、緑、ピンク、オレンジの5種類があって選べるようになっており、小中学生などに受ける要因と考えられる。Balaji onewayはスムーズさに欠ける気がするが、書き味は悪くない。“Obama”というインド製のボールペン（200シリング）も、数色の軸色展開のあるボールペンを販売している。Balaji onewayやObamaなどは文具店をはじめ、キオスク等多くの雑貨店で販売されている。

インド製のNATARAJは同種の形で350シリングや500シリングの商品があるが、300シリングのものがよく売れている。オフィスでの使用は300シリングのものでも書きやすく、使い勝手は十分という意見があった。これらの商品には黒や赤色のインクもある。

街中の店で日本製の三菱ボールペンを見かけたが、ノック式のもので3,000シリングという価格だった。店の人はいい商品だと言っていたものの、その他の売れ筋商品に比べ価格はかなり高い。

小学生にも日常的に使える価格で、できれば見た目も楽しく、キオスクなど身近な店で購入しやすいというのが、タンザニアにおけるボールペン普及の決め手ではないだろうか。そこに日本製品ならではの質が加わればさらに人気を集めると思われる。

		近代的店舗
商品写真	※伝統的店舗では、販売していない。	
商品名	COLOR' PEPS	
メーカー名	Maped(フランス)	
輸入元	—	
スペック	カラーペン 12色	
価格	8,500シリング(約472円)	
人気の要因	カラーペンにしては価格が高過ぎない。 小学生より少し大きめの子供たちに人気がある。	
調査店舗	Mehrallies Ltd. (街中のJamhuri通り沿いにある)	

■ 消費者インタビュー

<高所得層>

- 40代女性:「自分は使わないが、中学生の子供が学校で使っている。」
- 40代女性:「小学生の娘がお絵描きが好きなので、街中の店でトルコ製の12色入りのカラーペンを購入。描き味がよさそうだ。価格は8,500シリングだったと思う。」
- 50代男性:「使っていない。」
- 60代男性:「自分は使わないが、数年前に小学生の孫に6色入りくらいのものを文具店で買ってやったことがある。絵を描くのに使えるように。値段は忘れた。」

<上位中所得層>

- 20代男性(大学生):「買ったことはあるが、絵を描く時に使うくらいで、ほぼ使わない。セットで2,000~3,000シリングくらいのものをカリアコーの青空市場で買った。」
- 20代女性(大学生):「必要性を感じないので買ったことがない。」
- 20代女性:「Obamaが200シリングと安いのに書き味がよいし、細く書けるので使っている。」
- 30代男性:「私立小学校に通っている子供が、絵の授業の時に色鉛筆を使っている。」
- 50代男性:「会社でホワイトボード用の黒、緑、青などの色ペンは使うが、自分では色ペンはほとんど使わない。」
- 50代男性:「持っていないし、使わない。使う機会がない。中学生の娘も使っていないと思う。」

売れ筋商品調査 ⑧

売れ筋商品：カラーペン 一つづきー

■ 消費者インタビュー 一つづきー

<下位中所得層>

- **20代男性**(大学生):「授業の中で使う機会がない上に値段が高いため、持っていない。」
- **20代女性**(大学生):「使う機会がないので買っていない。」
- **20代女性**:「オフィスでも使わないし、プライベートでも使わない。」
- **30代女性**:「幼稚園の教諭をしているが、自分の幼稚園ではカラーペンは使っていない。お絵かきの時も普通の鉛筆のみ。」
- **50代男性**:「使わないし、使う用途がわからない。」

<低所得層>

- **20代男性**:「配送の仕事をしていたので、段ボールの宛名書きに経費で買った1本500~1,000シリングほどの太字用のマーカーペンを使っていた。色は黒、青、グリーン。」
- **20代女性**:「自分では使わないが、小学生の弟や妹が学校で色鉛筆は使っている。」
- **50代男性**:「使わない。」
- **60代男性**:「小学2年生の息子が学校の美術の授業の時に色鉛筆を使う。マーカーペンのようなカラーペンは持っていない。」

■ 消費特性

カラーペンは市民権を得ていないようだ。一般のタンザニア人にとっては、必要性を感じないものなのだろう。

小学校の社会の授業で地図を書いたり、美術の授業などには色鉛筆が使われていることから、12色入りの色鉛筆であれば需要がありそうである。ボールペンの調査を行った文房具店のMASUMINによると、NATARAJの12色入り色鉛筆(鉛筆削り入り)がお勧めとのこと。価格は4,850~5,000シリングで、カラーペンの半額程度。

スーパーマーケットのショッパーズなどでも色鉛筆はインドのNATARAJ製やフランスのMaped製のものが目立つ場所に陳列されているが、カラーペンは隠れるように置かれていた。なお、同店でホワイトボード用マーカーは、Bic製など数種類あり、価格は1,000~2,000シリングだった。

タンザニアでは色鉛筆市場なら需要がありそうだが、カラーペン市場が画期的に広がることはないのではないだろうか。



MASUMIN(街中のJamhuri通り沿いにある。Pran Pen Corner Ltd.の運営や文具の仕入れも行なっている。)



NATARAJの12色入り色鉛筆(鉛筆削り入り)
価格は4,850~5,000シリング

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるかぎり正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。